



OSAKA UNIVERSITY
OF ECONOMICS AND LAW
大阪経済法科大学

LIBERA

volume

79
2010



特集

経法大の“学生力”

—課外活動を通じて、自己成長を図る。

特集

経法大の“学生力” —課外活動を通じて、自己成長を図る。

学生の大学生活において、勉学が最も重要であることは言うまでもありませんが、大学では正課の教育だけでは得られない重要な役割を果たすもののひとつとして、課外活動があります。

大学における課外活動とは、あくまで学生の自主活動の場であり、この活動主体となる課外活動団体は、学生本人の意思により結成され、学生本人の意思によって加入し、自主的に活動を行うものです。また、正課の授業とともに、“人間形成の場”として重要な意義を持つ課外活動には、多様な価値観を持った多くの学生が集まり、そこでは密接な人間的交流が行われ、仲間との集団生活を通じて、互いに励まし合う間に「真の友情」が深まり、他人を理解し、自己を見出すことができます。

このように大学の課外活動では、幅広い人間性を養うための忍耐力やコミュニケーション力、協調性、判断力、行動力などが身につくとともに、健全な心身の発達を促すことが期待されます。

今回の特集では、実際に課外活動で活躍している学生から話を聞き、そこで感じる自身の成長や学生相互の連携により生み出される成果などについて紹介していきたいと思います。

大阪経済法科大学学報 [リベラ]

LIBERA
volume 79/2010



2010年11月1日発行
【編集】
大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番
TEL072-941-8211
FAX072-941-4426

<http://www.keiho-u.ac.jp/>

CONTENTS

3 特集

経法大の“学生力” —課外活動を通じて、自己成長を図る。

体育会空手道部

主将: 梅木香奈さん 副主将: 檜原由佑子さん

第39回経法祭実行委員会

委員長: 野村耕平さん イベント企画長: 金垣弘幸さん

10 [KEIHO INFORMATION]

2012年新春、八尾駅前キャンパスで
「新しい学び」に挑戦しよう。
新学生ホール棟「Chronos」建設工事進行中

14 [Keiho Vitality]

第7回世界大学空手道選手権大会で銅メダル獲得
八尾市役所にニッポンバラタナゴを寄贈
課外活動戦績報告 他



16 [経法タイムス]

野中広務元内閣官房長官が講義
第12回校友会総会・懇親会を開催
公開学術講演会、FD講演会を開催 他



18 [国際交流通信]

ロシア、中国で国際交流セミナー2010開催
異文化交流行事でUSJ訪問
海外留学プログラム参加者壮行会



20 [元気いっぱい!躍動する経法生]

赤池 大樹さん(経済学部4年生)
「Firippi Tas」企画立案者



梅木 香奈さん
法学部4年生
空手道部主将

**4年間の
課外活動を通じて、
人とのつながりの
大切さを学ぶ。**

**幼少時代に空手と出会い、
空手と共に成長。**

【梅木】空手を始めたのは5歳くらいの頃で、自分が気付いた時には、すでに空手着を着て練習をしている状況でした。中学時代は学校の部活には入らず、日曜日以外は道場に通って練習漬けの毎日でした。その成果が、中学校3年生の時には、全国大会でベスト8という成績を残すことができました。

大阪経済法科大学には、高校の空手道部の先生が経法大の空手道部の出身だったこと、高校の時の合同練習で知り合った同期の梅木と同じ大学で団体戦を組みたかったので一緒に経法大に進学しようと約束していました。

【梅木】空手は小学校1年生の時からやっているのですが、始める動機となったのは、空手をしている兄の姿を見たのがきっかけでした。中

学校の時は、学校に空手道部なかったので、硬式テニス部に所属し、空手は道場に通って練習していました。高校時代は、先輩や同期、後輩たちにも恵まれ、インターハイに3年連続で出場することができました。高校の時は、本当に部活に出るのが楽しくて仕方なかったくらいです。

大阪経済法科大学には、梅木と同じになりますが、大学で一緒に梅木と団体戦を組みたいという思いで選びました。それとは別に、高校の時に指導に来てくださった先生が、



**課外活動を通じて培った「友情」、
そして仲間への「思いやり」。**

【梅木】梅木と初めて会ったのは、高校の時の合同練習でした。合同練習に来た梅木は、自分を見て、冷たい子だと思い、第一印象はあまり良く思っていなかったそうです。自分は空手の練習中に喋ったりするのができない性格なので、そういう風に見られたのだと思います。その後は、何回も練習などで会うたびに互いの気心を知るようになり、今では本当に大の仲良しです。梅木は、たまに何を考えているのか分からない時があるのですが、本当に後輩思いで、自分にはない素晴らしい才能の持ち主だと思います。

【梅木】梅木とは、高校の時の練習試合や大会を通じて仲良くなりました。見た目は無愛想に見えますが、子どものような無邪気さを持ったお茶目なサメ好きの女子大生です。

梅木は、大学1年生の時から空手部のエースとして活躍していましたが、ここまでくるには相当なプレッシャーがあったと思います。そんな中、体格の差をもとめせず、世界大学空手道選手権大会で銅メダルを獲得したと聞いた時は、すごく感動したのと梅木の精神力の強さを感じさせられました。

**結果を残すことができた
世界大学空手道選手権大会。**

【梅木】初めて日本代表として参加した大会で、3位という結果を残すことができ、大変満足しています。世界大会で対戦した海

外選手は、体がとても大きく、日本の選手ではあり得ないような蹴りを繰り出してくるので、すごく良い経験をすることができました。

今回の日本代表選手団は、何度も代表に選ばれている選手が多かったので、雰囲気も良く、みんな気さくに話しかけてくれたので、とても楽しかったです。

**最上級生として、
自ら先頭に立ち部員を牽引。**

OBやOGの方からもたくさん支援をいただきながら頑張っています。

【梅木】梅木も言っていました。現在、部員の大半が初心者なのですが、厳しい練習にも弱音を吐かず、よく頑張ってくれていると思います。自分たちの同期には男子部員がいないので、空手道部で初の女子主将を梅木が務めています。色々と気苦労も多い中、個人成績で結果を残しながら、上手く部をひとつにまとめられていると思います。



梶原由佑子さん
法学部4年生
空手道部副主将

**何事にも
真剣に取り組む
ことで、
自ずと道は
切り拓かれる。**

**辛かったこと、楽しかったこと、
今ではすべてが良い思い出に。**

【梅木】4年間のクラブ活動では、思い出しただけで笑ってしまいそうなことや今考えただけでも涙が出そうなくらい辛いことがたくさんありました。同期の榎原や他の部員、関係者、家族に支えられてここまで来ることができたと思っています。4年間の学生生活を通じて、人、特に両親に対して感謝ができるようになったことは、一人の人間として成長できた証ではないかと思います。

個人では、やはり今年の世界大学空手道選手権大会で3位に入賞したことが関西空手道個人選手権大会で優勝できたことが一番思い出に残っています。

【榎原】梅木と同様、辛いことは本当にたくさんありました。こんなに辛いことはこれから先もうないんじゃないかと思うくらいでした。何回も何回も辞めたいと思っていました。が、そのたびに家族や友人、高校の先輩、大学の同期にたくさん励まされました。後輩がたくさん入部してくれたことや同じ体育会に所属する学生との交流など、



楽しい思い出もたくさんあり、それらすべての経験が自分にとって成長の糧になっていると思います。

**日々の鍛錬が、
自身の成長につながる。**

【梅木】今後は、残りの全日本学生空手道連盟主催の大会で好成績を残せるよう、日々の練習により一層励みたいと思っています。そして、大学卒業後は自身の希望の進路に就けるよう、残された時間は少ないですが、あきらめずに就職活動をしていきたいと思っています。

後輩の皆さんには、勉強や課外活動など、どんなことでもいいので大学在学中に何かひとつ自分が真剣に取り組めるものを見つけてほしいと思います。そして、その目標が見つければ、目標達成に向けて全力で取り組んでほしいと思います。それは、必ず自分にとって貴重な経験になると思います。頑張ってください。

【榎原】自分も全日本学生空手道連盟主催の大会が最後になるので、悔いが残らないようにひとつひとつの試合に気合いを入れて臨みたいと思います。特に団体戦では、他の部員の足を引っ張らないよう、自分の動きができるように集中したいと思っています。

4年間という時間は、本当にあっという間に過ぎてしまいます。上級生になるにつ

れ、その早さを実感することになると思うので、時間が過ぎて後悔するのではなく、いま自分ができることを精一杯挑戦してほしいと思います。

最後に空手部の後輩たちへ。練習中に部員同士で遠慮しあうことは、決して自分たちにとってプラスになることはないのので、同期、先輩、後輩関係なく、全力で練習に打ち込んでください。そうすれば必ず自信と結果はついてくると思います。頑張れ、我々が空手道部。これからもずっと応援しています。



野村 耕平さん
経済学部4年生
第39回経法祭実行委員会委員長

**一人でも多くの
学生に参加して
もらえるような
魅力ある「経法祭」
を創り上げたい。**

**今年のテーマは『感謝』、
One for KEIHO KEIHO for One**

【野村】今年の第39回経法祭のテーマは、『感謝』One for KEIHO KEIHO for Oneです。このテーマに決まった経緯は、第39回39サンキューThank you感謝という流れで決定しました。流れだけを見ると、ただ単に語呂合わせで付けたように思いかもしれませんが、この『感謝』には、これまで経法祭が開催し続けてこられたことや地域の方々、大阪経済法科大学に関わるすべての方々への日頃の感謝の気持ちを経法祭で表現したいという想い、そしてThank youという語呂合わせは今年の第39回にしかできないということで、経法祭自体も第39回にしかできないものを創ろうという意味が込められています。

**地域に開かれた
参加型の経法祭を実現する。**

【野村】まず経法祭の目玉となるのが、久しぶりに復活した「Mr.Msコンテスト」です。ここ数年開催されていなかった企画を今回思い切って復活させ、経法大のNo.1美女とNo.1男前を決めます。今年は、このような在学生の参加型企画を多く取り揃えているのが特徴のひとつです。

【金垣】今年の経法祭は、大学の関係者だけでなく、周囲の人たちもたくさん巻き込んで開催しようというモットーのもと、準備を進めてきました。これまでやっていなかった周辺地域の幼稚園や保育園、小学校、中学校、高等学校にも呼びかけを行い、誰でも気軽に参加できるように経法祭にしていきたいと考えています。

【野村】今年の経法祭実行委員会は、4月に立ち上げられ、5つの局と11の企画で構成されています。毎週金曜日に開催される全体会議で、経法祭全体に関わる事項や局・企画ごとに開かれた会議の内容などの報告





金垣 弘幸さん
経済学部3年生
第39回経法祭実行委員会イベント企画長

**今までにない
新しい「経法祭」を
実現し、
たくさんの人の
喜ぶ笑顔を見たい。**

【金垣】僕は、実行委員会の中にあるイベント企画長を任されています。ステージの上で行うイベントや今年の経法祭から新たに企画しているプチイベントの内容などを考え、それを形にするための企画を出したりしています。もともと色んなアイデアを出したりするのが得意だったので、とても楽しく活動することができています。ただ、手先が不器用なので、衣装などを作るのには少し苦労しました。

在学生が主役となる 経法祭の工夫とは。

【野村】毎年経法祭への一般学生の参加率が低いので、今年もこれを重要課題のひとつに位置付けて準備を進めてきました。そして、今年は早い段階から一般学生への経法祭の告知や実行委員会やイベントへの参加を募ることに力を入れてきま

した。その結果、例年実行委員会への一般学生の参加がほとんどなかったのですが、今年は約10人の一般学生の参加がありました。今年の経法祭は、このようなこと以外にも一般学生をひとりでも多く巻き込めるような、多様な企画を多く取り揃えています。

【金垣】今年の経法祭から、新たな試みとしてプチイベントというものを企画しています。これは「輪投げ」や「コイン落とし」など、どの時間でも気軽に参加できるイベントです。ちなみにプチイベントの実験を先日行ったの

課外活動を通じて、 互いの存在を認め合う。

【野村】金垣君は僕より学年が1つ下で、僕にとっては弟のような存在です。そんな弟のような金垣君は、何事に対しても素直に真正面から取り組む後輩です。

今年の経法祭では、イベント企画長を務めてくれているので、とても心強く感じるとともに、昨年までの経法祭とは一味違ったイベントになるのではないかと期待しています。

【金垣】実行委員長である野村さ



組んでいます。

みんなで創り上げ、そしてみんなで楽しめる真の経法祭の実現に向け、実行委員会の先頭に立ち、残りの期間全力で準備に取り組んでいます。

【金垣】経法祭が終わった後に、経法祭実行委員会のメンバー全員が「今年の経法祭楽しかったな」と言える

ような経法祭にしたいと考えています。僕は自身は、イベント企画長として、経法祭に参加してくださった皆さんに喜んでもらえるような様々な企画を考えていきたいと思っています。

最後に、「女装コンテスト」や「Mr.Ms!ンテスト」は、誰でも参加できますので興味のある方は是非文化会館1階の経法祭実行委員会室へお越しください。ちなみに男性教職員による「ジェントルマンコンテスト」も企画しますので、教職員の皆さんも是非参加してください。



**学生生活の中で経法祭は、
かけがえのない経験になる。**

【野村】僕は、経法祭に1年生の時から参加しているのですが、1年次は軽音楽部のクラブ生として、2年次はクラブの部長として、3年次は実行委員会のイベント企画員として、経法祭に携わってきました。僕にとって経法祭は、大学生活の大きな一部分を担っていると言っても過言ではないと思います。

経法祭の準備期間中は、辛いこともたくさんありますが、経法祭が終わった後に達成感とともに自身の成長を感じられるように、どんなことにも一生懸命に取り組んでいきたいと思っています。

【金垣】僕にとって経法祭は、クラブ活動と同じような感じです。経法祭実行委員会という大きな組織の中で、ひとつの歯車として活動することで、将来の自分にとってかけがえのない経験をするができていていると思います。

今までにない 最高の経法祭を目指そう。

【野村】今年の第39回経法祭が、僕にとっては学生として取り組む最後の経法祭になります。その最後の経法祭に実行委員長として携われたことを本当に嬉しく思っています。そして、今回のサブタイトルである「One for KEHO KEHO for One」には、経法生、教職員、地域の方、経法大に関わるすべての方々、みなでこの第39回経法祭を創り上げたいと考え、付けさせていただきました。その実現のために、様々な人の力を借りながらですが、実行委員一人ひとりが自覚を持ち、経法祭を成功させるための準備に取り

2012年新春 八尾駅前キャンパスで、 「新しい学び」に挑戦しよう。



市型キャンパスのロケーションを活かして、キャンパス内外に活動の場を広げ、「都市(まち)をキャンパスに」したスケールの大きなキャンパスライフを実現することが出来ます。

**専門教育と
エクステンションセンター講座は
新キャンパスで開講**

学生の皆さんは、大学生活をスタートさせる花岡キャンパス(現キャンパス)で、多彩な学びや友人・先輩との対話を通じて、コミュニケーション能力と自立して学ぶ力、態度を身につけ、国際性や人間性を豊かにすることに力を置きます。

専門科目・専門演習とエクステンションセンター講座は、新キャンパスで行われる予定です。で、3年・4年生及び講座受講生は主に新キャンパスで学ぶことになります。

2012年、本学は、2つのキャンパスで、「21世紀型市民」に求められる教育へと新たな一歩を踏み出します。

近鉄八尾駅から徒歩5分、 都市(まち)がキャンパスに。

現在の1年生の皆さんが、経済学部、法学部の専門科目を集中的に学ぶ3年生になる2012年新春、新たに八尾駅前キャンパスが誕生します。新キャンパスは、近鉄八尾駅から徒歩5分に位置し、JR大阪

駅から23分、近鉄大阪難波駅から14分など大阪の主要ターミナル駅から30分以内でアクセスが可能となります。

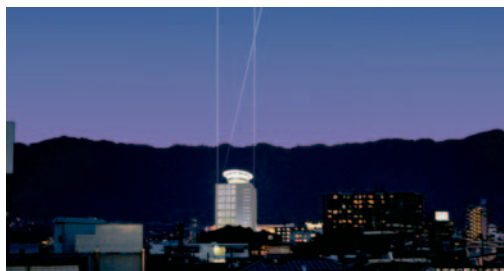
新キャンパスは、夜間・休日も利用可能で、学生の皆さんは、高度なICT(Information and Communication Technology、情報通信技術)、少人数双方

向型授業、地域と連携した実践的な学習を通して、高度な専門知識と技能を修得し、社会で活躍できる確かな実践力を身につけることができます。また、交通至便なアクセス環境を活かした就職活動の拠点となるでしょう。

さらに、学生の皆さんは、都

新たなランドマークとなる 都市型キャンパス

新キャンパスの総合校舎は、オーバル(楕円)を用いて建学の理念を表現する最頂部のデザイン、建物正面の外観を特徴付ける2機のシースルーエレベーター、3階層分の広がりをもって見通せるエントランスホールなど、都市型キャンパスとして洗練された外観デザインを備えています。



開放感あふれる エントランスホール

学生や教員たちが日々行きかい、企業や地域の人々など、多くの人が訪れるエントランスホール。広々とした空間は、授業前や放課後の待ち合わせスペースとしても最適です。また、様々な事務サービスをワンストップ提供する事務室を設置しています。

エント ランス



2階・ 3階

学生が自由&快適に過ごせる Student Lounge (2階) 就職・キャリア支援の拠点となる キャリア・サポート・フロアー (3階)

2階に学生ラウンジやカフェ、3階にキャリアサポートを行う就職課やグループ室など、学生生活を充実させるための施設を配置し、学生同士の交流や授業以外の時間を快適に過ごせる空間を提供します。

【八尾駅前キャンパス建設計画概要】

構造規模：鉄骨造・一部鉄骨鉄筋コンクリート造
地上12階(最高高さ59.69m)
敷地面積：2,721.41㎡ 建築面積：1,354.99㎡
延床面積：8,331.02㎡
設計監理者：株式会社 松田平田設計
施工者：株式会社 大林組



建物をシートで覆い、サッシ・外壁工事を行っています。
屋根の部分も出来上がりつつあります（10月6日現在）。



地上3階建ての「クロノス」をしっかりと支える基礎工事の様子（6月）。

建物の骨組みとなる鉄骨が運び込まれ、西側エリアから柱が立ち上げられています（7月）。

今年2月から着工した新学生ホール棟「Chronos」の建設工事は、基礎躯体工事、地上躯体工事などを経て、現在、外装仕上げ工事及び内装工事、設備工事等に入っています。予定どおり来年2月には、皆さんの前にお披露目することになります。
同工事の進捗状況は、大学Webサイト（キャンパスリニューアル計画）でも随時更新していきますので、そちらも是非ご覧ください。



5階

最新のICTを駆使し、学生が能動的に学ぶ アクティブラーニングフロア（5階）

これからのユビキタス社会に備えて、最先端のICT設備を駆使し、学生が能動的に学習するアクティブラーニング、最新の端末が並ぶPC教室やIT専門研究室（ITラボ）を活用した授業など、新しい学びを体感できます。

6階
～
10階

少人数講義や実践的授業に適した レクチャーフロア（6階～10階）

八尾駅前キャンパスの学びの特徴である「少人数双方向型授業」を進めるため、大講義室は設けず、中小規模の講義室や実践的な授業に対応した各種演習室でフロア構成され、教員と学生の活発な交流がさらに学びを深めてくれます。

11階
・
12階

学生の知的探求心に応える ライブラリースペース（11階・12階）

図書館分室には、経済・法学の専門図書や雑誌等の蔵書のほか、ビデオやDVDが閲覧できるAVコーナーを完備。エクステンションセンターには、資格・キャリア関係の教材が豊富に揃っており、大阪平野を一望できる自習スペースで、落ち着いて学習することができます。

第7回世界大学空手道選手権大会で銅メダル獲得



銅メダルを獲得し表彰台に立つ梅木さん(写真右から2人目)

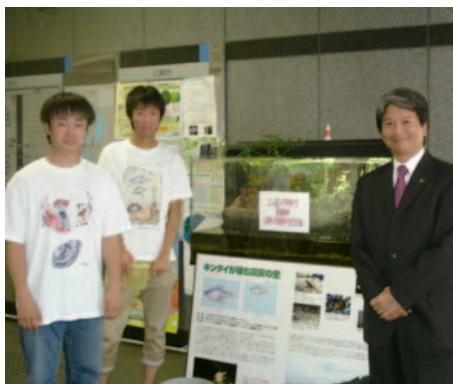
7月15日(木)～18日(日)の4日間、モンテネグロ国(首都ポトゴリツア)で開催された第7回世界大学空手道選手権大会に、日本代表として出場した本学空手道部の梅木香奈選手(法学部4年)が、個人戦女子組手68kg級で見事銅メダルを獲得しました。梅木選手は、団体戦女子組手のメンバーにも選出され、銀メダル獲得に大いに貢献しました。

同大会は、FISU(国際大学スポーツ連盟)公認の世界大会で、学生のオリンピックと言われる「ユニバーシアード大会」と同等の権威ある大会です。

●梅木選手のコメント
このような大きな大会で入賞することができ、とても光栄に思います。まだ、国内での大会も残っているのので、良い成績を残せるよう頑張りたいと思います。

八尾市役所にニッポンバラタナゴを寄贈

8月16日(月)、環境活動グループ「ECO～る∞KEIHO」の西堀裕紀さん(法学部3年)らは、八尾市環境事業部からの要請を受け、本学ふれあい池で繁殖させている絶滅危惧種ニッポンバラタナゴやヨシノボリ、メダカなどを持って、八尾市役所を訪問しました。



八尾市長と記念撮影する「ECO～る∞KEIHO」の部員

漫画アニメーション研究会に東大阪市より感謝状贈呈

8月18日(水)、東大阪市の役所で「東大阪市第2次総合計画後期基本計画イラスト版」の完成記者会見が行われ、制作に携わった本学漫画アニメーション研究会部員の熊井宏さん(法学部3年)と吉田侑矢さん(経済学部4年)に、野田義和東大阪市長から感謝状が贈呈されました。

本学を含め4大学(大阪産業大学、大阪商業大学、東大阪大学)の協働で作成されたこの「イラスト版」は、A4版24ページで、「序論」「部門別計画」「地域別計画」「行財政編」の4つの内容で構成されています。本学漫画アニメーション研究会は、「部門別計画」と「地域別計画」を担当し、全体の約半分のページの作成に関わり、「イラスト版」の完成に大きく貢献しました。

日本肢体不自由者卓球協会主催の強化合宿に参加

7月1日(木)～3日(土)の3日間、大阪市舞洲障害者スポーツセンターで、日本肢体不自由者卓球協会主催によるナショナルチームの強化合宿が行われ、本学女子卓球部が参加協力しました。

この合宿は、今年度の日本障害者卓球選手権大会の優勝者たちが集まり、アジア・世界大会に向けた強化練習のために実施されたもので、今回は本学の女子卓球部が、合宿期間中の練習指導及び練習試合の相手として招聘されました。



東大阪市長と記念撮影する熊井さん(写真右)と吉田さん(写真左)

●熊井部長のコメント

今回こんな大きな計画に参加することができ、自分にとつてとてもいい経験になりました。また、色々な作業もすることができ、とても楽しくやらせていただきました。

課外活動戦績報告

第77回全日本学生卓球選手権大会関西予選を通過

8月18日(水)・19日(木)の2日間、東大阪市立総合体育館で、第77回全日本学生卓球選手権大会関西予選が開催され、本学卓球部の4選手が本戦出場の切符を手に入れました。

本戦は、10月22日(金)～24日(日)に、なみはやドームで開催されます。

【本戦出場選手】男子シングルス

庄野 肇選手(経済学部4年)
杉谷英明選手(経済学部2年)
酒井巖行選手(経済学部1年)
女子シングルス
中橋理沙選手(経済学部1年)

西都大学軟式野球連盟1部リーグに残留

7月21日(水)、大泉緑地野球場で、西都大学軟式野球連盟春季リーグ入替戦(関西福祉科学大学戦)が行われ、

体育会軟式野球部が12対1(コールド勝ち)で勝利し、1部残留を果たしました。

第36回全日本サンポ選手権大会で、2位・3位に入賞

7月18日(日)、財団法人スポーツ会館で、日本サンポ連盟主催の第36回全日本サンポ選手権大会が開催され、ジニア62kg級で島崎大選手(経済学部3年)が2位、佐伯晋介選手(法学部1年)が3位入賞を果たしました。



社会の不条理から政治を志し、国政を担った 野中広務元内閣官房長官が「内閣の役割と機能」をテーマに講義



講師を務める野中広務元内閣官房長官

7月7日(水)、共通教育科目「現代日本の議会と行政」のゲストスピーカーとして、野中広務元内閣官房長官が「内閣の役割と機能」をテーマに講義を行いました。

道を踏み出そうと決意したこと、その決意を理解してくれた上司に深く感謝し、「誰かが栄達の道を進むとき、誰かがそれを補佐してくれる。人生最大の恩人である。」と当時を振り返られました。

続いて、町長から京都府府議会議員、京都府副知事を経て、国政に転じて、衆議院議員として活動してきた自身の歩みを語られました。その中で、2度の入閣経験から内閣の役割と機能について、自治大臣・国家公安委員長(村山内閣)、内閣官房長官(小淵内閣)として取り組んだ数々の政治課題を具体的に紹介し、迫力ある講義が行われました。

また、現在の日本政治のあり方と関連して、小選挙区制度について、「49.9%が投票しても、50.1%得票した人間に当選権が与えられ、49.9%の民意は完全に封殺されてしまう。」と導入に反対されたことなど様々な課題について自身の信条を強く述べられました。

2010年度 FD講演会を開催



8月31日(火)、大学教育開発支援センター主催による、FD講演会「甲南大学CUBEにおける新たな大学教育の取組」が、本部棟2階特別会議室で開催されました。

今年度は甲南大学の佐藤治正教授(マネジメント創造学部学部長)を講師に招き、マネジメント創造学部の学部名の由来から学部の教育方針や理念、少人数のグループで取り組む「プロジェクト」を中心にした4年間の学びについて、自身が

体験されたエピソードなどを交えながら具体的な説明が行われました。

第12回校友会総会・ 懇親会を盛大に開催

7月24日(土)、第12回大阪経済法科大学校友会総会及び懇親会が、スイスホテル南海大阪(大阪市中央区)で開催されました。

総会では冒頭、伴井敬司校友会会長から開会の挨拶が行われた後、校友会顧問である藤本和貴夫学長から、大学の近況報告と今後の大学の目指す



方向性について報告が行われました。続いて、校友会活動の概括的な紹介が行われ、「2009年度事業報告及び収支決算書」、「2010年度事業計画及び収支予算書」について、報告説明が行われました。その後、各支部の活動状況等について報告があり、それぞれの地域の状況にあわせた参加者拡大や在学生の就職支援活動の試みなどが紹介されました。

懇親会では、吹奏楽部による演奏で幕を開け、旧友との再会を懐かしむ同級生の輪や先輩・後輩の輪、卒業生と教員の輪が会場の至る所で見られ、それぞれの輪で昔話に花を咲かせていました。

歓談の間に行われた企画では、本学卒業生である『ウインズ』の平阪佳久氏(1981年・経済学部卒)によるミニライブや抽選会などが行われ、会場は熱気と興奮に包まれていま

第3回中学生サマ・ セミナーを開催

7月24日(土)・25日(日)の2日間、「平成22年大阪中学生サマ・セミナー」が開催され、本学から2つの講座が提供されました。

今回は、簡単な中国語会話や中国の伝統文化である太極拳などを体験・学習する『言葉のおもしろさ、異文化のおもしろさ—中国を身近に感じよう—』、古代の「なにわ」を法制史という観点から学ぶ『なにわの宮と奈良の都』が開講され、大阪府下の中学生延べ11名が参加しました。

公開学術講演会を開催

7月21日(水)、久宝寺寺内町まちづくり推進協議会前会長高垣匡往氏を講師に迎え、地域総合研究所主催の公開学術講演会「寺内町の歴史を生かしたまちづくり」を本学6号館6500号教室で開催しました。

久宝寺寺内町再興に取り組んだ経緯や「まちなみセンター(寺内町ふれあい館)」の建設、「燈路まつり」についても、説明が行われました。

(寺内町とは)
室町時代に浄土真宗などの仏教寺院、道場(御坊)を中心に形成された自治集落のこと。





国際学生交流セミナー2010

「アジア太平洋の未来戦略——気候変動と持続可能な開発」

5カ国・地域の学生が集い、多角的な視点から活発な議論を展開



真剣な表情でセミナーに参加する学生たち

「2010」(以下、「セミナー」)が開催されました。今年度のセミナーには、昨年度の4カ国(本学、中国復旦大学、韓国・崇実大学校、ロシア・極東国立総合大学)に、新たに国立台湾大学を加えた5カ国・地域の学生たちが参加し、環境問題をはじめとする東アジア地域に共通する様々な社会問題について、国境や認識の違いを越え、グローバルな視点から多角的に議論が行われました。

「環境問題」をテーマに、自国のあり方を考える。

8月18日(水)～8月22日(日)の5日間、ロシア・ウラジオストク



プレゼンを行う極東国立総合大学の学生

大学大学院博士課程博士候補生Iakov Malin氏から、「環境政策実行における基本問題——中国を例に——」が報告されました。

ロシアアプログラムでは、それぞれの国の経済・法律など、社会制度への理解に基づいたアプローチを試み、環境問題において自国の経済と社会のあり方について学ぶことができました。また、極東国立総合大学学生のプレゼンテーションを受けて、グループディスカッション、講演会終了後の質疑応答も活発に行われ、先進国と開発途上国が共に取り組むべき環境問題と100年に一度と言われる世界経済不況からの脱却に向け、建設的な議論が交わされました。

上海万博に参加し、中国の経済発展と活力を実感

8月22日(日)からの中国・上海プログラムでは、セミナーのサブテーマ(「万博がもたらすもの」)でもあり、中国の国威と経済発展のさらなる起爆剤として位置づけられている上海万博の見学、今もなお歴史的建造物が残る豫園でのフィールドワーク、中国八大古都のひとつであり国家歴史文化名城のある杭州市でのフィールドトリップなどの多彩なプログラムが用意され、多くの学生たちは歴史



や文化、伝統に触れることができました。

上海プログラムの最終日は、本学学生によるプレゼンテーションも行われ、日本における環境汚染とその克服の過程を過去、現在、未来の順に紹介し、京都議定書の内容とともに、地球温暖化防止対策のアイデアが提案されました。本学の学生プレゼンテーションは、各国の学生たちに新鮮に受け止められ、活発な意見交換が交わされました。

今回のセミナーでは、東アジア地域に位置し、歴史的にも地理的にも密接な関係にある5カ国・地域の学生たちが、寝食を共にし、共に学び、考え、議論することで、将来に続く建設的な関係を構築し、大学間国際交流の新たな形を提案する有意義なセミナーとなりました。

TOPICS

第3回異文化交流行事
50名の学生がUSJ訪問



7月24日(土)、総勢50名の留学生、一般学生参加の下、第3回異文化交流行事がUSJ(ユニバーサル・スタジオリゾート)で開催されました。

今回の異文化交流行事では、日本有数のテーマパークであるUSJを訪れることで、留学生にとって日本のサービス産業や娯楽産業の先進性を直接肌で感じることができる貴重な機会となりました。

海外留学プログラム参加者の壮行会を開催

8月4日(水)、留学生寮I・S・D・布施に2010年度海外留学プログラム参加者が堂に会し、出発前の壮行会が開催されました。

交換留学生の歓送会も兼ねて行われた今回の壮行会では、担当教員の挨拶に続き、参加者から留学期間中の抱負や目標が語られました。今回の派遣学生は17名の内、ASP参加者が1名、16名がLSP参加者となります。

グリフィス大学に派遣される小森諒(法学部2年)さんは、「オーストラリアの実情や文化などを肌で感じ、有意義な留学生活にしたい。」と抱負を語りました。



留学でたくさんのことを学び、
一回りも二回りも
大きく成長することが
できました。

赤池大樹さん

(経済学部4年生)

「Firippi Tas」企画立案者

**語学の習得だけでなく、世界で起きている
事象について関心を持つようになりました。**

私が大学のプログラムを活用して、オーストラリアに留学したのは2年生の時でした。元々英語は得意ではなかったのですが、留学コースで授業を受けていくうちにもっと英語を話せるようになってほしいという思いを持つようになり、海外留学することを決意しました。

留学先のオーストラリアでは、学校での授業以外にもクラスの仲間とのバーベキューやパブなどで知り合った現地の人との交流を通じて、語学力の向上と積極的に自ら話しかけるという行動力を身につけることができました。その後、フィリピン大学に留学に行ったのですが、そこでは語学の勉強以外にもたくさんの人に出会い、フィリピンで起きている貧困問題などについても知ることができました。



ミンダナオ子ども図書館を訪れた時の写真

今回、「Firippi Tas」を企画したのも、このような現状を目の当たりにし、何か少しでも役に立つことができなかと考えたのと、一人でも多くの学生に世界で起きている事実を伝えたいと思ったからです。

**たくさんの人の協力により、
国際貢献企画を実現することができました。**

今回、国際貢献型の菓子販売店である「Firippi Tas」を企画立案しようと思った一番の理由は、留学先のフィリピンで知り合ったNGO団体の関係者とミンダナオ島に行き、ミンダナオ島の持つ歴史や貧困の現状を直接自分の目で見て、知ることができたからです。そこには、紛争や貧困で生活が困難になった家庭の子供

たちが学校にも行くことができず、日雇い労働でその日の生計を立てている姿がありました。

「Firippi Tas」という名前は、そのような現状にある「「フィリピ（Firippi）」を「助（Tas）」けたい」という思いで付けたもので、ミンダナオ島の子供たちのために売り上げの一部を寄付し、保育所の建設などに役立ててほしいという思いで立ち上げました。

今回は、八尾市にある若菜の会をはじめ、大阪府北部農と緑の総合事務所農の普及課の職員の皆さん、ミンダナオ子ども図書館など、たくさんの関係者の協力により、7月に4日間ではありましたが学内で店舗を営業することができ、売り上げも上げることができました。そこでの売り上げの一部は、11月にミンダナオ子ども図書館の代表に直接手渡す予定になっています。

**何事もあきらめずに挑戦することで、
必ず結果はついてきます。**

“愚痴を言ったり、くだらないことに時間を費やしている暇があるなら行動すべきだ。”これは誰が言った言葉か分かりませんが、私はこの言葉を思い出すたびに、怠けている自分を奮い立たす時があります。時間というのは、何もしなくても刻一刻と過ぎていきます。大学時代の時間というのは、自分のために時間を有意義に使える最後の機会だと思います。

留学に行って語学力を伸ばすのもよし、資格取得にチャレンジするのもよし、いろんなことに挑戦できるのが大学生活の良いところです。

来年4月からは、内定をもらっている企業に就職する予定ですが、自分自身残りの大学生活をより充実したものにできるよう、自分でやりたいと思ったことは就職活動も含めて、最後の最後まで全力でやっていきたいと思います。